



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

『震われない御国と変わら
ない人格』これは、スタンレー
ジョーンズ博士が最晩年に出
版された後世への遺言ともい
える名著だ。1934年、彼
がかつてのソ連邦(現ロシア)
を福音宣教のために訪れた
時、「科学的社会主義による
共産主義が『神の国』と『救
主イエス・キリスト』に取っ
て代わる危険が世界的に普及
することを恐れ」(訳者あと
がきより)この本を書かれた
という。しかし、その内容は
いわゆるありきたりな反共出
版物ではなく、むしろ現代に
生きる私たちキリスト者と教
会に向けた大変挑戦的な書物
であると私は思っている。

瞑想

わたしは知っている。
わたしを贖う方は生きておられる。

ヨブ19..25

主幹牧師 榎本 恵

そうとした理想的制度やシ
テムも、それはいつか崩壊し
てしまう。彼を「非現実主義
者」として冷やかに迎えた
共産主義ソビエトも、今はそ
の面影すらない。独裁国家は
次々と倒れ、かろうじて続け
ているかに見える民主主義も
また、混乱の中にある。本来
高潔であるべき政治家も聖職
者もスキャンダルにまみれ、
社会がよって立つ倫理や道徳
は揺らぎ続けている。私たち
は誰もこの現実世界の中には
「震われない御国と変わらな

は注意を要する」と。
「震われない御国」と「変
わることはない人格」は確か
にある。今も昔も、そして未
来永劫、私たちの只中に、私
たちの間に、そして私たちの
戸口の前に神の国は存在す
る。主イエスが「神の国が近
づいた」と宣言された、その
時にそれは始まり、主イエス
の再び来たり給う時まで、そ
れは完成へと向かっている。
確かに今、私たちの只中に
あるものは、神の国とは程
程

戸を強く叩き続けている。諦
め、挫け折れてしまう私たち
の心を。
旧約聖書のヨブは、彼を
襲った理不尽な不幸の数々を
前にし、灰をかぶり衣を裂き
嘆き悲しむ。しかも彼を慰め
に来たはずの友の発する「罪
のない人が滅ぼされ、正しい
人が断たれることがあるかど
うか。」(ヨブ4..7)という
言葉に傷つき、ついには「神
が私に非道なふるまいをし
た」(ヨブ19..6)と神を呪い、
「親友のすべてに忌み嫌われ、
愛していた人々にも背かれて
しまった」(ヨブ19..19)と
嘆き眩くのだ。彼の目の前の
厳しい現実には動かぬ磐石のよう
に立ちただかり、死の日を迎
えるまで、決して変わることに
なく続いていくもののように
思われた。しかし、その只中
で、ヨブはふりしほるようと
叫ぶ。「わたしは知っている。
わたしを贖う方は生きておら
れる」(ヨブ19..25)と。
友よ、あなたは知っている
か。このどうしようもない現
実の只中に、決して「震われ
ない御国と変わらない人格」
のあることを。友からも、身
内からも、そして自分自身か
らも見放された現実の只中
に、今も生きておられる贖い
主のおられることを。
私たちの間に、私たちの間に
に、そして私たちの戸口に
ある神の国の真実を知る者とな
ろうよ。

婦人よ…、 私の時はまだ来ていません。

脇 萬里子

第1回四国（二日）アシラムは主の時として2019年6月15日（土）愛媛県四国中央市にある三島真光教会で開催されました。

榎本恵主幹牧師はこのアシラムへの案内文に「1967年始められた今治アシラム



- ご献金者 敬称略
- 8月分
- 良雄 俊夫 禮子 朝子
- 金山 瀬川 吉川 沖田 明石 シオン
- 橋本 本木 福岡 アシラム
- 千博 悦子 曉郎 恵子
- 保智 伸一 健一 和子
- 平和 和子 歳子 孝子 昭子
- コリ子 久美子 晶子
- 久子 聖子 恵子 徹子
- 展子 悦子 晶子 江子
- 寿子 和子 氏子 正光子
- 敬子 敬子 和子 浩子
- 榮子 敏子 新子 高子
- 聖子 代子 良子 茂子
- 三郎 要子 玲子 博子
- 弘子 延子 禮子
- 丸川 屋
- キリスト教会

ムから52年の時を経て、再び四国の地でセンターの主催アシラムが開かれようとしています。」と記されています。私たち人間の時の数え方だと50年もかかったんだ！と思ってしまうような、およそ半世紀の長〜い時でありますけれども、皆さまの時は千年も一日のごとであります。

現在、四国でも各地でアシラムが開催されています。参加したいとの思いがあっても叶わないでいる時、「センターから出張してアシラムができる」と良いな」と常任運営委員会の席で恵先生がチラッと言われた時、私は「これだっ！」と思えました。自身で立ち上げることは

困難でも、センター主催なら開催できるのではないかと希望を与えられました。アシラムを三島真光教会での思いの中には外す事の出来ない交わりがあります。

50年ほど前、三島真光教会の一信徒の方が岡山のハンセン病療養所にある長島曙教会に導かれ、信徒の方々の主への信頼と喜びにあふれる信仰を目の当たりにし、教会に帰り当分の金田福一先生に伝え、共に訪問、聖徒の群れだど！その愛兄弟方に来ていただき、聖会を開催した時には、保郎先生が何度も講師として来てくださいました。また聖徒の方々はほうぼうの教会に招かれて証しをされました。そして、今治アシラムは療養所の方々の参加をその当時にあった偏見も差別もなく快く受け入れられたのです。その方々

によつて福岡などでアシラムが拡げられたと聞いています。三島真光教会は療養所の方々の祈りとお支えによつて今あると言つても過言ではないほどの主にある親しい深いお交わりをさせていただいています。そしてそれは金田先生の、主への信頼された信仰なしには実現されなかつたことでもあると思つています。それらのことを受けて、恵先生の提案により、今回の第1回四国アシラムは金田福一先生を覚えることへと導かれたアシラムでもありません。そして、私とアシラムとの出会い。

保郎先生が第1回台湾アシラムを開催されるので参加者を募られた時、私は20歳。中高生の頃より色々読んでいた本に刺激されたので宣教に燃えていたので、海外へ行くチャンスでした。母に相談し、私の思いが主のみ心であるという確信を得るまで、日々共に祈りました。渡航費用もいることです。（夫とその頃婚約中でしたので結婚にと貯めたものがあります！）参加メ

切ギリギリ最後に加えていただき、アシラムを知らないまま台湾に旅立ったのです。国内アシラム未体験の私は、海外でアシラムを濃厚に体験し濃密に体感！これが私のアシラム！信仰生活の原点です！先ず神さまの前に静まって、み言葉に聴く！『朝の15分があなたを変えろ！』歩みへと導かれたのです。当然のこと紆余曲折多々ありの歩み！それから四十数年後！三島真光教会の長老会において宇賀充牧師と長老は会場としての使用を快く承認。以来祈り会や婦人会で祈りに覚えて準備してまいりました。

昨年恵先生と四国アシラムを担当される常任運営委員の引原勝美兄が三島真光教会を訪問してくださって、打ち合わせをしました。

私たち人間の思いの時ではなく、イエスさ

（日本キリスト教団 三島真光教会）

（つづく）

アシラムの恵み
—福岡一日アシラムに参加して—

横山 宜和
福岡の夏の風物詩、祇園山笠の追い山が博多の早朝の街を駆け抜けた7月15日に福岡一日アシラムが開かれ、私も参加させて頂き、多くの恵みを受け、今回の主題聖句は、その時の私としては一番、目にしたくなかった箇所、ヤコブ1:19、そう「怒るに遅く」と書いてある所ではありませんか。

丁度一週間前に職場

で頭に来る事があって、人に暴言を吐いて始末書を書かされたばかりだったのです。

しかし同じファミリイになったある牧師先生が「いや、私も気が短い性格ですから、みな同じですよ」と言って下さった時は、一方ならずホッとした気分でした。

そして聖書の学びだけではなく、医師から余命一年を宣告され、自分の残された地上の時間を神様のために用

い、主の御用をなさっておられるある友の姿を見ると、私自身本当に頭が下がる思いで、自分などまだまだだなあと思う事然りでした。

昨年還暦を迎え、私も後何年この地上で生かされるか分かりませんが、彼のごとく残された年月を主のために精一杯生きようと誓った一日でありました。

主にあつてのアシラムでの学び、兄弟姉妹方との交わり、本当に素晴らしい感謝の一日でした。

（無教会派 福岡聖書研究会）



*相次ぐ台風被害に遭われた方々を思い、皆様と共に祈りをあわせております。

アシラムセンター一同



写真右、小宮山林也牧師
1996年1月台湾 伍 秀英長老(写真左、今年9月御召天)のご主人様ご葬儀にて

国際正義平和アシラムが、札幌の地で明日から開かれようとしております。在りし日の先生のお声を思い起こすとともに、天へ帰られた先生を憶え、皆で祈ります。

ご遺族、ご関係の皆様、主の豊かな慰めと励みがありますように。

札幌にて。

◆小宮山林也牧師 哀悼の辞
日本アシラムセンター主幹牧師 榎本恵

イエスは主なり
偉大な先達の天への凱旋の報に接し、心から哀悼の意を表します。

す。奇しくも林也牧師によって導かれた台湾、ブラジル、日本のアシラムの友が集う

横山 輝子
当山八重子
キリスト教会
吉田すみえ
米田 康子
米田 名 芳雄
無 今村 和恵
沖田 麗子
武藤 英一
杉山 博子
大谷 珠江
柴田 政和
小林 81口
¥939,758

ヨセフ基金
(義援金)
島田 洋子
吉田すみえ
米田 康子
ちいるば
アツちゃん・
シユラム君
4口
¥20,000

会堂改築の
ために
速明 1口

誕生日感謝
松村 玲子
1口

第16回
国際正義平和
アシラムの
ために
氏 名
無 森 よし子
西本美恵子
下村 徹嗣
下村 展子
塚田 政司
猪瀬 和子
西野 栄子
佐藤 智子
安伸 甫子
小川 久恵
野村 昌代
尾崎 二恵
影山 尚子
尾崎 高子
佐々木春代
柴田 珠江
有田 勝久
17口
¥87,500

合 計
104口
¥1,063,258

専らご基金、
ご商品、お祈り、
お便り、電話
メッセージ、
そして、共に
アシラム！
感謝いたします

証し

山田 秀穂

(神戸聖愛教会、広野祈りの家の友)

聖愛教会、敬老の日記念礼拝にて



猪瀬姉宅での、広野祈りの家にて。

この様な数々の恵みが与えられてから、今、私は84歳を迎えようとしています、これから、いつまで生かしていただけるだろうか？そして残された人生を如何に歩むべきかを考える様になりました。

先ずは、神のご恩寵によって生かされていくことに感謝して、今迄に私が授かった信仰

の喜びを伝える伝道に力を注ぎたいと思っています。

私は、幸いにも健康が与えられ、又、現役時代の時に比べ、多くの時間が与えられています。その恵みの中で、今は、夫婦共々で

教会での礼拝を守り、又、月一回のアシラムで、聖書に向き合い祈りを通しての交わり

の場に加えさせて頂いている事は大きな感謝であります。私はこの教会に転会を許されて14年になります、この教会は立地条件、建物も含め、優れた備えものが与えられているにもかかわらず、礼拝に参じる方も少なくなり、教勢が低迷している現状を見て「もったいない」との思いを強く思っている

処です。

今、教会ではこれらの良い賜物を生かしての音楽礼拝、コンサート等を通しての伝道のお働きは在りませんが、この事以上に、更に多くの人々を招く為の企画、工夫、そしてお招きするための教会一致の勇氣ある伝道の行動が必要であると痛感しております。

10数年前の日野原先生をお招きしての講演会には、教会員以外の方は殆ど見られなかった、とある兄弟から聞き、何故その時、伝道に生かすことが出来なかったのか？との思いを強く持ちました。

そして、教会内の信徒の交わりについて考えさせられました。主日礼拝の後、ご奉仕で忙しくされている方、又、直ぐにお帰りになる方も居られ、礼拝後の交わりの時の寂しさを感じております。その日の御言葉を通して語り合う霊的交わりの

時が有れば、次の主日礼拝に兄弟姉妹との再会の楽しみにも繋げるのではないのでしょうか。特に高齢者にとっては様な場が必要で在ると思うのであります。私は月一回のアシラムと猪瀬姉宅での三木祈りの家に参加して、御言葉を聴き従う瞑想の時を与えられたの靈的な交わりに加わることが、私のこの教会生活の支えにもなっています。

今も少子高齢化が進む中で平均寿命もさらに延び、高齢者の方はこれからも増え続く中で、居場所を求めておられる高齢者の方は多い様です。

この教会が、将来、集う礼拝出席者の方々が満席になる事に希望を持っていきます。これからの私は健康が与えられる限り、ご利用のためには働きたいと念じています。用いて下されば幸いです。

(おわり)

クリスマス献金のお願い

あなたの御言葉は、わたしの道之光

詩119:105

今年もまた、主のご降誕をおぼえ、献金をお献げいただきたくお願いいたします。

世界を覆う暗く重い空気の漂う中に、しかし救い主はお生まれになるのです。悲しみや苦しみの多いこの時に、しかし世を照らす御子はお生まれになるのです。喜びましょう。感謝しましょう。悲しみや苦しみの方が多い私たちですが、主はその只中で、馬小屋の飼葉桶の中に寝かされているのです。

アシラムセンターの働きは、皆様の尊い献金で運営されており、アシラム誌の発行、各地域での聖書教室やセンター主催のアシラム。また、修道場やアンナの家、いろいろは記念チャペル等の管理運営。これらアシラムセンターの働きの原点は、「暗闇を照らす御言葉の光」です。このことを私たちは、多くの人たちに伝えたいのです。悲しみの中にある人に。苦しみの中にある人に。アシラムの働きをおぼえ祈ってください。支えてください。私たちもまた祈ります。そして共に支え合っていますように。

アシラムセンター
主幹牧師 榎本恵

瞬きの詩人

水野源三の世界 39

三浦綾子記念文学館特別研究員
森下 辰衛

姪 1982

高校に合格した
姪に
おめでとうと
言えないで
微笑だけの私

明るい声で
源三ちゃん
ありがとうと姪

私は
心の中で
神さま
ありがとうございます

明るい声で、「源三ちゃん ありがとう」と言うとき、姪の心には何があったでしょう？勿論高校に合格した喜びと感謝です。でも、「おめでとう」と言ってくれた者に、ありがとうと言うのが普通です。なのに「おめでとう」を言わない源三さんに、姪は「ありがとう」と言いました。声に出して言うおめでとうの代わりに微笑みにありがとうと言ったのでしょうか。

あるいは人は、プレゼントをもらったり、お世話になったりしたときに「ありがとう」を言うものですが、何もできない源三さんが高校受験のために何をしてくれたというので、ありがとうと言っているのでしょうか？勉強を教えてくれたのでもない。夜食を運んでくれたのでもない。それでも、背後でずっと祈ってくれていたことを知っていたからでしょうか？祈る声も言葉も聞いたこともないはずなのに。

でも、ここまでの人生のみちのりに、ずっとずっ

と、いつの日も、この源三さんの微笑みがあったこと。この微笑みに送られて、この微笑みに守られて、この微笑みに励まされて、この微笑みに抱きしめられて、育てられ歩んできたことが、その尊さが分りはじめている姪の心があるのです。それは、高校入学試験の合格の日であると共に、彼女が一つの成長の段階を確かにまた一つ登った日でもあったのでしょう。

同じ体験を詠った短歌があります。

おめでとと言えないわれに高校に合格の姪が
ありがとうと言う

しかし、姪のことを詠んだ短歌にはこんなものもあるのです。

死にたいと思ったことがあるかと姪に聞かれぬ
木枯の夜

彼女は どうして、死にたいと思ったことがある
かなどと問うたのでしょうか？

姪は源三さんの状況を自分に置き換えたときに、その壮絶さが分かる年齢になったのでしょうか。自分がもし源三伯父さんのような状況になったら、とても生きてはいけないように思えたのかも知れません。そこで、源三伯父さんのすごさが分かったでしょう。でも、もしかしたら、それだけではなく、姪自身もまた、死にたいと思うことがある年齢になったのかも知れません。そのとき、この死にたい思いを越えてきたであろう伯父さんに問うてみたかったのかも知れません。そして、そんな姪のそれぞれの成長段階において、源三さんは、時には心痛めつつも、そっと寄り添うように慈しみの微笑みで見守ったのでしょう。

私は 心の中で

神さま ありがとうございます

何もかも、ありがとうございます。高校の入試合格よりももっと素晴らしい姪の成長を、源三さんは見て、感謝しているのでしょう。

「源三ちゃん」と呼ぶ姪の、その明るい声は「ありがとう」即ち「有り難い」ということ、源三ちゃんという存在が奇蹟のように尊いものであることに気づいてきているのです。そして、源三さんにとって姪も、神さまがくださった「有り難い」奇蹟のような存在だったのです。

